





# 林業ミニ情報 No.156

令和元年11月

- 1 大子清流高校の生徒が高性能林業機械の操作及び間伐を体験……………1  
(大子林業指導所 栗田)
- 2 親子でヒノキ材を使った飾り棚づくりを実施……………2  
(笠間林業指導所 宇都木)
- 3 「茨城をたべよう収穫祭」でマイ箸づくりを実施……………3  
(鉾田林業指導所 中村)

タイトル	大子清流高校の生徒が高性能林業機械の操作及び間伐を体験
年月日	令和元年10月9日(水)・10日(木)
場所	大子町下野宮及び田野沢地内
内容	<p>県内唯一の林業関係学科を有する県立大子清流高等学校の農林科学科生徒を対象とした林業の体験実習が開催されました。</p> <p>この実習は、茨城県林業研究グループ連絡協議会が林野庁の「多様な担い手育成事業」を活用し、地元の大子町林研グループ員と関係機関が連携して、次代の林業を担うことが期待される生徒たちに、林業の専門的な知識や技術を習得させることを目的としています。</p> <p>実習は2日間に分けて実施され、1日目は現在皆伐を行っている民有林内で、3台の高性能林業機械を使用して行う集材・造材・積込の一連の作業を2年生6名が体験しました。生徒たちは普段扱うことのない機械を自ら操作するという貴重な体験に積極的に取り組んでいました。</p> <p>2日目は現在間伐を行っている民有林で、チェーンソーを使用した伐採作業を全学年38名が体験しました。1年生は初めのうちは慣れない様子でしたが、指導者や先輩のアドバイスを受けながら作業を進める中でコツを掴み、作業効率は徐々に向上していきました。</p> <p>今回の体験で生徒からは、「機械を操作するレバーやボタンが多く、難しかった。」「思っていた以上に木を伐るのは大変な作業だった。」という感想や、「祖父が林業を営んでいるので、将来は引き継ぎたい。」などの抱負を聞くことができました。</p>
	 
	<p style="text-align: center;">高性能林業機械操作体験の様子</p> <p style="text-align: center;">間伐体験の様子</p>
普及成果	当学科からは毎年、林業関係への就職や大学への進学を選択する卒業生が多いため、当指導所では引き続きこのような取り組みを支援して、後継者の育成確保に努めてまいります。

タイトル	親子でヒノキ材を使った飾り棚づくりを実施
年月日	令和元年 10 月 15 日 (火)
場所	城里町立常北小学校
内容	<p>城里町立常北小学校の 2 年生 17 名とその保護者を対象に、緑や森づくりの大切さを理解し関心を持ってもらうため、森林・林業についての講話と木工工作の体験学習を実施しました。</p> <p>はじめに講話を行い、茨城県の森林の特徴や、森林の働き、林業について説明しました。木を育てるのに長い年月と手間がかかることに、児童たちは驚きと同時に興味を持った様子でした。</p> <p>次に、ヒノキ材による飾り棚づくりを行いました。この棚は、材料を提供していただいた笠間林産協同組合と当指導所が連携してキット化したものです。</p> <p>木工工作自体が初めての児童も多く、慣れない手つきながらも保護者と協力し、一生懸命製作に取り組み、仕上げに思い思いの絵を描いて、自分だけの飾り棚を完成させていました。</p> <p>作成後は、飾り棚のにおいをかいでみたり、手触りを確かめたりと木の良さにとても関心を持ったようです。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>飾り棚の作り方を指導</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>完成後に親子で記念写真</p> </div> </div>
普及成果	<p>今回の体験学習後、児童から「木や森のことを知ることができて良かった」「飾り棚のヒノキの香りが好き」などの感想があり、森林や木材を身近に感じてもらうことができました。また、保護者からも「木工工作を通じて、森林のことを知ることができて良かった。」という感想を聞くことができました。</p> <p>当指導所では、今後もこのような体験学習などを通して、次代を担う児童・生徒たちに、森林・林業についての理解を深める取組を続けてまいります。</p>

タイトル	「茨城をたべよう収穫祭」でマイ箸づくりを実施
年月日	令和元年 10 月 5 日 (土)・6 日 (日)
場所	鹿嶋市神向寺後山「カシマサッカースタジアム」
内容	<p>県及び鹿嶋市の主催により、茨城の農産物や加工品等が一堂に会する食の祭典「茨城をたべよう収穫祭」が開催されました。</p> <p>鹿行地区では初めての開催となり、鹿行農林事務所も出展しました。農業振興課はGAP（農業生産工程管理）に関するクイズの回答者に地元の甘藷をプレゼントする「GAPクイズ」のブースを、当指導所は子どもたちが実際に木材に触れることで森林・林業を身近に感じてもらうため、ヒノキ間伐材をカンナで削って箸を作る「マイ箸づくり」のブースを、互いに連携しながら運営しました。</p> <p>なお、実施に当たり多くの参加者が見込まれたことから、指導所員以外の農林事務所職員にも協力を求め、事前に箸づくりの指導方法についての講習会を行いました。</p> <p>収穫祭当日は暑さに加え強風が吹くなど、天候には恵まれませんでした。 「マイ箸づくり」のブースには 2 日間で約 150 名の小学生が参加しました。</p> <p>参加者の中には、以前当指導所が行った箸づくりの体験学習に参加したことのある児童もいて、「前よりも上手に作れた。また木工工作をやってみたい」との感想をいただきました。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>鹿行農林事務所のブース</span> <span>箸づくりの様子</span> </div>
普及成果	<p>鹿行地域は森林が少なく、地域の人々が森林や林業に関心を持つ機会も少ないため、木工工作などの体験学習を通してその関心を深めていきたいと考えています。</p> <p>今後も当指導所では、林業以外の分野の方々とも適宜連携して、引き続き普及活動を行ってまいります。</p>